

## 特別名勝 虹の松原②

～七不思議のほかにもたくさんの不思議に出会えます～

語り継がれている七不思議は次の通りである。

1. 豊臣秀吉が名護屋城へ向かう途中この松原を通り、あまりセミが鳴くので「騒々しい」と叱った時以来、セミの声が絶えたという。
2. 秀吉が松原を通っている時、松が高く邪魔で眺望がきかなかつたので、「低くなれ」とグツと一睨みして以来、高くない「睨み松」がある。
3. 秀吉の軍隊の槍を立てかけた「槍掛松」。
4. 百万本の松はクロマツばかり。
5. 松原の中に海岸近くであるが塩分を含まぬ真水を湧出する井戸。
6. 高島の右端と神集島の左端を結ぶ延長線が松原の中心である。
7. 浜崎にある諏訪神社にまつられている諏訪姫の願により松原には蛇はいない。

マツが好きなセミはハルゼミとニイニイゼミの2種類だけで、ハルゼミは春に鳴くセミであり、夏には小さな声で鳴くニイニイゼミしかいないので、そのために松原ではセミがいないという話になったのでしょうか。最近は他の種類のセミの声が聞こえるようになった。これは松原にマツ以外の樹木が見られるようになったことに関係ありそうである。

ヘビも松原の中であまり見かけることはありませんが、民家の近くや草が繁茂している場所などヘビの餌がありそうなところでは、時々見かける。

松原内の井戸が真水になる理由は、真水が海水よりもわずかに軽いために、海水の上に浮かんでいるためである。この理論は1900年ごろに発表されたもので、それまでは不思議な現象だったでしょう。同じような真水の井戸が京都府の天橋立にもある。

松原にはクロマツばかりでなくアカマツもあり、マツタケを見ることもできる。

七不思議の意味を考えながら虹の松原を散歩するのもひとつの楽しみである。

分野 自然

地域 唐津・浜玉

◎地図・写真・統計資料など



体が斜めになる小道



松根油採取あと  
(佐賀大学客員研究員 田中明氏より)



ハルゼミ

◎引用・参考文献（出典）

- ◆ 『唐津市史』
- ◆ 『はまさき諏訪神社の七不思議とすわ姫悲恋物語』はまさき諏訪通り商店街連合会
- ◆ 『虹の松原七不思議ガイドブック』虹の松原七不思議の会

◎エピソード・伝承・うんちく など

虹の松原には今まで語り伝えられてきた七不思議だけでなく、まだまだ不思議なことがあります。それらを7つにまとめてみた。

1. 松原にもマツタケ：普通は山にあるマツタケが松原にもある。
2. 消えた松露：昔は、たくさんあった松露を今は見かけることはない。
3. 連理の松：風が強いのに、2本の松の幹や枝がつながっている。
4. 松のなかの砂：伐採された松の空洞に砂が入っていることがある。
5. 体が斜になる小道：歩いていると、自然に体が斜になる道がある。
6. 松の切り傷：地上近くの松の幹に三角模様の傷跡があることがある。
7. 太い松も細い松も同じ高さ：太い松の方が高くないのは何故か。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)